

H24-D1-1 深度68.84~69.20m 破碎帯範囲 (No.最-12) の変更に伴い、最新活動面 (No.最-13) を変更

H24-D1-1 深度68.84~69.20m ボーリングコア観察 断層面の認定(2/2)

・断層面 γ は細粒部を伴い、湾曲及び凹凸が少なく、直線性に富む。不連続部は認められず、連続性に富む。

コア写真



ボーリング柱状図

●68.84~69.00m: 破碎部
 68.84~68.93m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端50°で不明瞭、下端55°でやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。明灰褐~灰白色を呈する。幅32mm。
 68.93~68.95m: 粘土質礫状部 (Hb)
 上端55°、下端50°でともにやや波打って連続。径5~18mmの粘土化した岩片を多く含む。やや硬質。石英は殆んど含まない。上下端は幅1~4mmでマンガン鉱染を受け灰黄褐色化。これ以外は灰白色を呈する。幅20~30mm。
 68.95~69.00m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端50°、下端45°でともにやや波打って連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体。下端は幅2mmの硬質淡褐色粘土脈を伴う。灰褐色を呈する。幅32~35mm。
 69.00~69.73m: 大半の割れ目は消滅するが、69.42mに傾斜68°、69.67mに傾斜70°で直線的でシャープな割れ目が残留する。
 69.06~69.18m: 傾斜60~80°で幅2~8mmの灰赤色粘土脈が湾曲しながら連続する。

凡例
 ← → 破碎部範囲*
 ※: 写真上は白色で記載

湾曲及び凹凸が少なく、不連続部が認められない



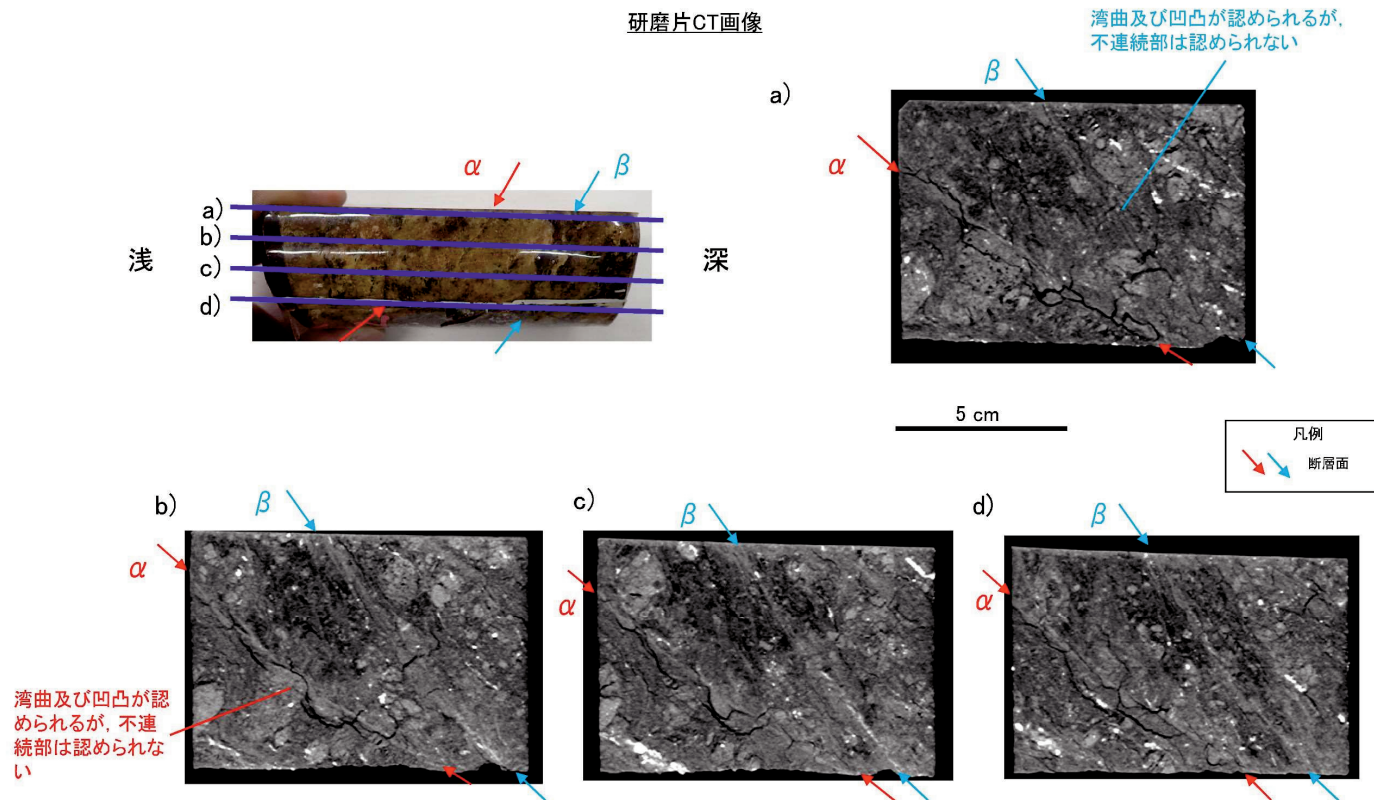
水色枠部拡大

凡例
 ↓ 断層面

H24-D1-1 深度68.84~69.20m 破碎帯範囲 (No.最-12) の変更に伴い、最新活動面 (No.最-13) を変更

H24-D1-1 深度68.84~69.20m CT画像観察 断層面の認定(1/2)

- ・CT画像観察において、ボーリングコア観察で認められた断層面 α 及び β 、 γ が認められる (γ は次ページ)。
- ・断層面 α は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が認められ、直線性に乏しい。不連続部は認められず、連続性に富む。
- ・断層面 β は三次元的に他の構造に切られておらず、湾曲及び凹凸が認められ、直線性に乏しい。不連続部は認められず、連続性に富む。

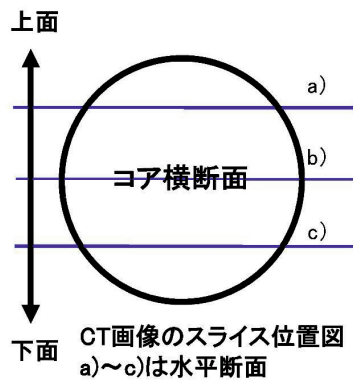


H24-D1-1 深度68.84~69.20m 破碎帯範囲 (No.最-12) の変更に伴い, 最新活動面 (No.最-13) を変更

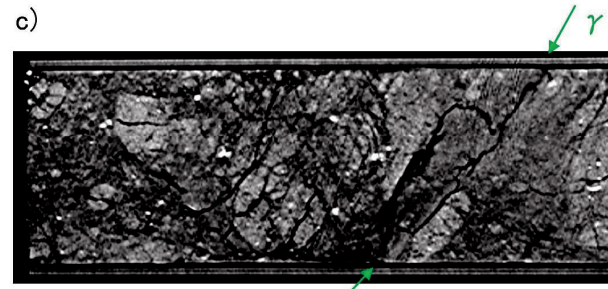
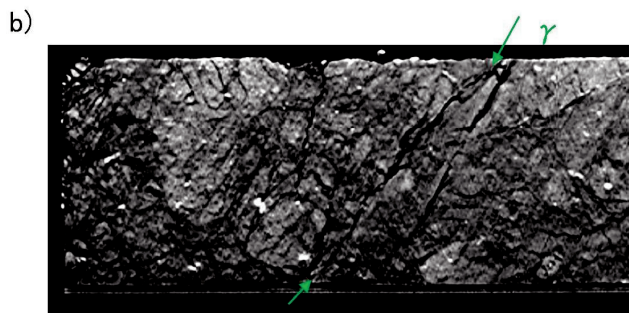
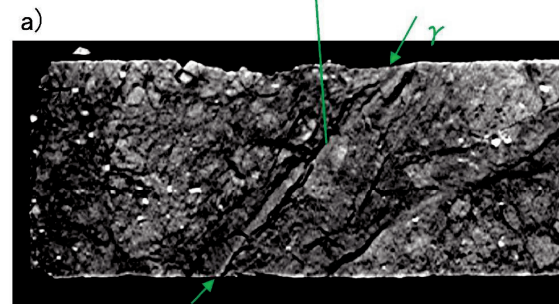
H24-D1-1 深度68.84~69.20m CT画像観察 断層面の認定(2/2)

・断層面 γ は三次元的に他の構造に切られておらず, 凹凸が認められ直線性に乏しい。不連続部が認められず, 連続性に富む。

ボーリングコアCT画像



凹凸が認められるが, 不連続部は認められない

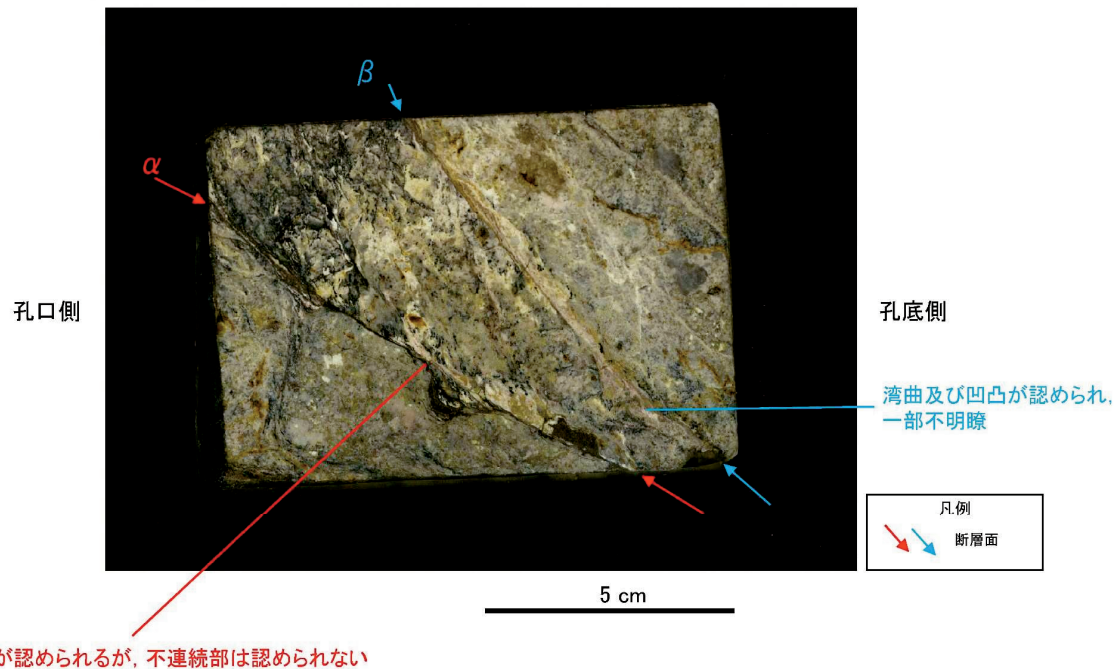


H24-D1-1 深度68.84~69.20m破碎帯範囲 (No.最-12) の変更に伴い, 最新活動面 (No.最-13) を変更

H24-D1-1 深度68.84~69.20m 研磨片観察 断層面の認定(1/2)

- ・研磨片観察において, CT画像観察の結果と同様に断層面 α , 断層面 β , 断層面 γ が認められる(断層面 γ は次ページ)。
- ・断層面 α は細粒部を伴い, 湾曲及び凹凸が認められ, 直線性に乏しい。他の構造には切られておらず, 不連続部は認められず, 連続性に富む。
- ・断層面 β は細粒部を伴い, 湾曲及び凹凸が認められ, 直線性に乏しい。他の構造には切られてはいないが, 一部不明瞭となっているため連続性に乏しい。

研磨片写真



H24-D1-1 深度68.84~69.20m破碎帯範囲 (No.最-12) の変更に伴い, 最新活動面 (No.最-13) を変更

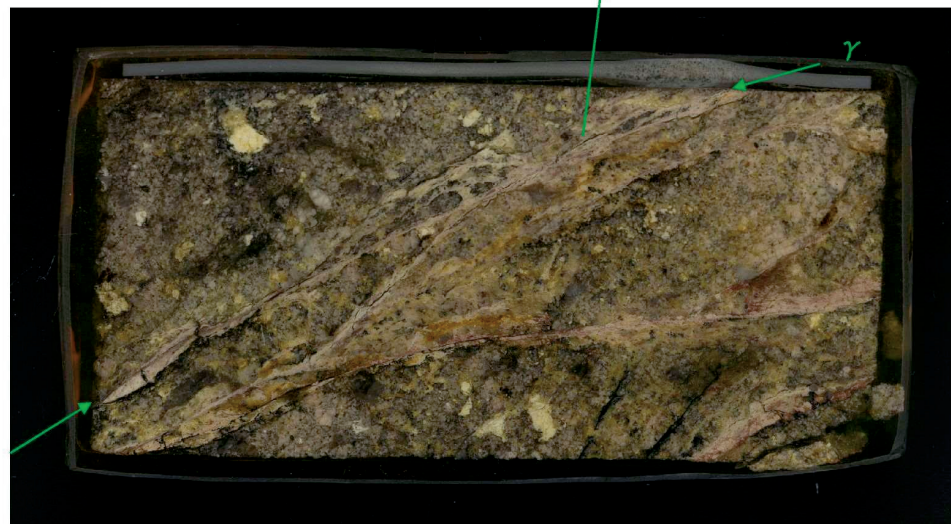
H24-D1-1 深度68.84~69.20m 研磨片観察 断層面の認定(2/2)

- ・断層面 γ は細粒部を伴い, 湾曲及び凹凸が少なく, 直線性に富む。他の構造に切られておらず, 不連続部が認められないため連続性に富む。
- ・ボーリングコア観察, CT画像観察, 研磨片観察より, 細粒部を伴い, 直線性, 連続性に富む深度68.93mの断層面 α 及び深度69.06mの断層面 γ を検討対象の断層面とし, 薄片観察により最新活動面を決定することとした。

研磨片写真

湾曲及び凹凸が少なく, 不連続部が認められない

孔口側



孔底側

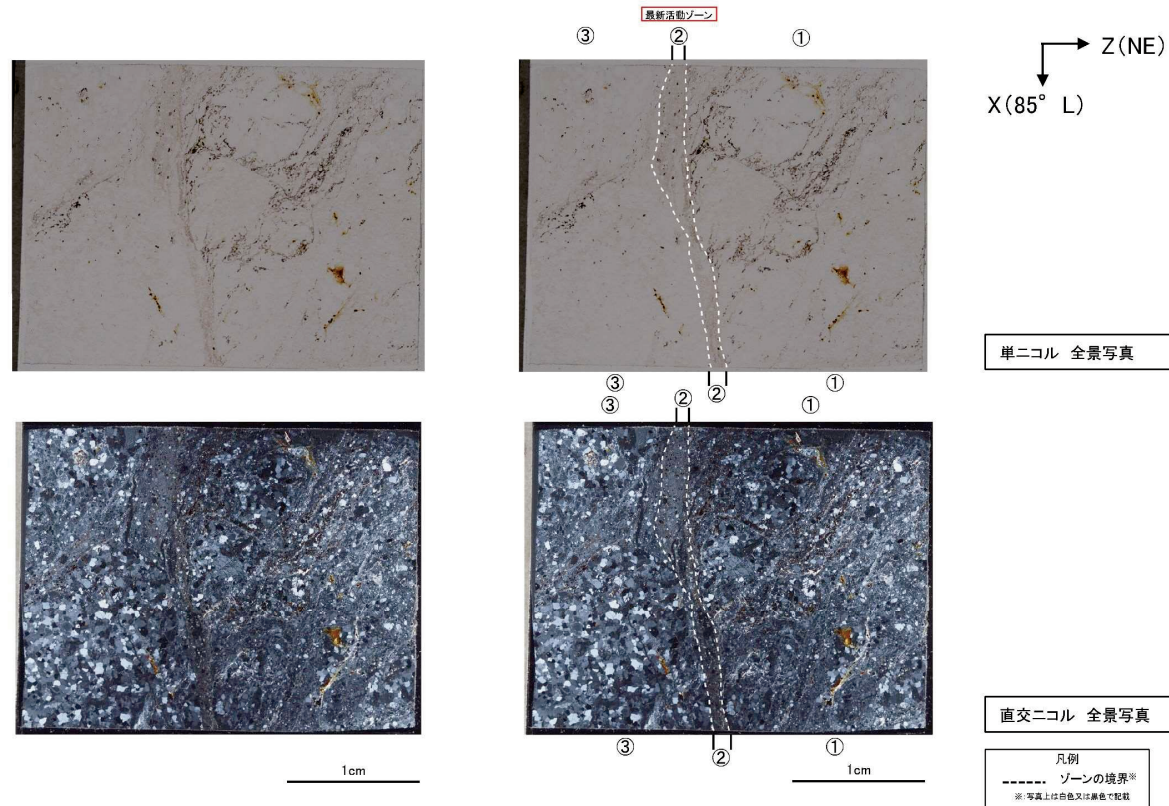


5 cm

H24-D1-1 深度68.84~69.20m 破碎帯範囲 (No.最-12) の変更に伴い, 最新活動面 (No.最-13) を変更

H24-D1-1 深度68.84~69.20m 薄片観察(断層面 α) 分帯

- ・①のゾーンは, 粘土鉱物の量は少なく, 粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く, 角ばっている岩片が多い。
 - ・②のゾーンは, 粘土鉱物の量は少なく, 粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は少なく, 角ばっている岩片が多い。岩片の粒径も①のゾーンと比べ小さい。
 - ・③のゾーンは, 健岩部である。
- 以上のことから, 細粒化が最も進んだ②のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。



H24-D1-1 深度68.84~69.20m 破碎帯範囲 (No.最-12) の変更に伴い, 最新活動面 (No.最-13) を変更

H24-D1-1 深度68.84~69.20m 薄片観察(断層面 γ) 分帯

- ・①のゾーンは, 粘土鉱物の量は少なく, 粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く, 角ばっている岩片が多い。
 - ・②のゾーンは, 粘土鉱物の量は多く, 粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は少なく, 丸みを帯びている岩片が多い。
 - ・③のゾーンは, 粘土鉱物の量は少なく, 粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く, 角ばっている岩片が多い。
- 以上のことから, 細粒化が最も進んだ②のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。

